

# GREEN ニュース

環境アドバイザー連絡協議会

代表 原田 邦昭

2020 年 1 月発行



## 群馬県環境アドバイザーの動き

### (令和元年 12 月 20 日現在)新規登録名

第 11 期(登録期間:平成 30 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日)です。新規登録者を含め令和 2 年 1 月 20 日現在、男性 182 名、女性 92 名、合計 274 名です。

自然環境部会 120 名 温暖化・エネルギー部会 94 名、ごみ部会 83 名、広報委員会 26 名が登録し活動されています。

送付方法、メール 147 名 封書 125 名

群馬県の環境情報サイトに、環境アドバイザーのページ開設



<http://www.ecogunma.jp/>

環境アドバイザーのページへ直接アクセスは、下記 URL へ

<http://www.ecogunma.jp/?p=3058>

県内の環境イベントカレンダーをご活用下さい。

<http://www.gccca.jp/voluntee>

八王子市の景信山から見た紅富士です。冬の朝に日の出前の数分間富士山の山頂から徐々に染まり感動を与えてくれます。登山道の周辺で見られる「霜の花」は温暖化の影響か今年は見られませんでした。

表紙画像・文 副代表 西村 豊

## 目次

- P2 環境政策課より
- P3 副代表 西村 豊 新年の挨拶
- P4 ごみ部会、自然環境部会
- P5 温暖化・エネルギー部会、広報委員会
- P6 藤岡工業高校 富岡氏、鈴木顧問
- P7 広報委員会
- P8 前橋部会、編集後記にかえて

# 新年挨拶 & みなさまへお知らせ

群馬県 環境政策課

明けましておめでとうございます。

今年は約半世紀ぶりに東京で夏季オリンピック・パラリンピックが開催されます。また環境問題の話題では、2020年以降の気候変動問題に関する国際的な枠組みである「パリ協定」の本格的な運用がスタートする年となります。

世界では気候変動が「気候危機」として認識されつつあり、国内においても昨年は記録的な猛暑や台風19号に代表される記録的な大雨など、全国各地で深刻な被害を受けました。

こうしたことから、もはや地球温暖化の被害は将来だけではなく、今既に生じているという認識を持つことが重要です。

国では2050年までにCO2排出量80%削減する長期戦略を表明しています。群馬県でもこのたび2050年に向けて、CO2排出ゼロを初めとする「5つのゼロ」を宣言しました。

宣言内容を実現するには、環境アドバイザーをはじめとする県民の皆さまの協力が必要不可欠です。

新年を迎え、改めて、環境アドバイザーの皆さまには当県環境行政推進への御理解と御協力を宜しくお願い申し上げます。

★2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」2019.12.25

<URL> <https://www.ecogunma.jp/?p=10030>

「群馬5つのゼロ宣言」で検索

## <お知らせ>群馬県環境情報「ECOぐんま」公式Twitter(ツイッター)を始めました!

これまで県環境局では、当局が運営する県環境情報ホームページ「ECOぐんま」において、様々な環境情報を発信してきましたが、県民の皆様に向けて、更に情報発信力を強化するべく、公式Twitter(ツイッター)を立ち上げました。

ツイッターでは県主催の環境学習授業「動く環境教室」の様子や各市町村主催の環境イベント等の告知を行います。

環境アドバイザーの皆様も地元の環境イベントの開催情報等を県民の皆様へ広くご紹介したい事がございましたら、当局ツイッターにおいてPRすることも可能ですので、その際は、イベント概要やチラシ等を下記担当メールアドレスまでお寄せください。

また、スマートフォンやパソコン等でSNSを利用されていれば、是非とも当局ツイッターをフォローいただき、情報発信に御協力をお願いします。

<ECOぐんま公式ツイッター>

[https://twitter.com/ECO\\_gunma](https://twitter.com/ECO_gunma)

 @ECO\_gunma



スマートフォンのQRリーダーで読み込めます。

【ECOぐんま】には、環境アドバイザー専用のページがございます。 <https://www.ecogunma.jp/?p=3058>

# 新年あいさつ

副代表 西村 豊

明けましておめでとうございます。

令和になって最初の正月はいかがお過ごしでしたか。

昨年は群馬県でも台風 19 号により「100 年に 1 度の頻度で起こる」と言われている大雨で甚大な被害が発生しました。土砂災害で 4 名が亡くなり群馬県全体では 390 億円余の被害額となり、鉄道も八高線や吾妻線の一部が長期間不通になり私たちの生活にも影響が出ています。私の住んでいる太田市でも石田川が氾濫して 200 棟以上で床上・床下浸水の被害が出てしまいました。これらも地球温暖化の影響が大きいと考えられています。

気象庁の発表によれば、2019 年の日本の年平均気温の速報値は基準値（30 年平均）を 0.92 度上回り 1898 年の統計開始以来最も高温となる見込みで、世界の年平均気温も基準値を 0.42 度上回り 1891 年の統計開始以来で 2 番目に高くなる見込みです。また台風は 29 個発生し 15 個が接近、5 個が上陸して平年値を上回りました。

昨年開催された地球温暖化対策を話し合う国連の会議「COP25」では小泉環境大臣が演説で石炭火力発電からの脱却や温室効果ガスの削減目標を引き上げる意思を示さなかったため、国際 NGO のグループから温暖化対策に消極的な国に贈る「化石賞」に選ばれてしまいました。

一方アメリカの雑誌「タイム」は世界に最も影響を与えた「ことしの人」に地球温暖化対策を訴えるスウェーデンの 16 歳の「グレタ・トゥーンベリ」さんを選びました。グレタさんはスウェーデン議会の前で毎週金曜日に学校を休んで温暖化対策を訴え続ける「未来のための金曜日」と呼ばれる活動をきっかけにニューヨークの国連本部で開かれた温暖化サミットや、スペインで開かれた「COP25」でスペインの閣僚らとともに公式イベントに登場し「歴史上の大きな出来事はいつも人々から始まりました。待つ必要はありませんし私たちは変わることができます」と述べて一人ひとりが行動することの大切さを強く訴えました。

温暖化対策を求める若い世代の運動が日本でも広がっています。私たち環境アドバイザーも「行動する環境アドバイザー」として一人ひとりが行動を起こしましょう。

群馬県では 2050 年に向けた「5 つのゼロ宣言」行いましたがこの中で「温室ガス排出ゼロ」、「プラスチックごみゼロ」、「食品ロスゼロ」についてはアドバイザーとして活動できる内容が沢山あります。一人では難しいものもありますが、アドバイザーの各部会や地区の皆さんと協力して行動しましょう。



台風 19 号の増水後石田川岸に残されたプラスチックごみ類

## 「5 つのゼロ宣言」

- ・ 自然災害の死者「ゼロ」
- ・ 温室効果ガス排出量「ゼロ」
- ・ 災害時の停電「ゼロ」
- ・ プラスチックごみ「ゼロ」
- ・ 食品ロス「ゼロ」



## グレタ・トゥーンベリ

ごみ部会 山田 朗

2019年グレタ・トゥーンベリさんの国連演説。「人々は困窮し死にひんしている。全ての生態系が崩壊し始め、私たちは大規模な絶滅を前にしています。それなのにあなたたちは、お金と永続的な経済成長という（おとぎ話）ばかりを語っている。」もちろん直接聞いた訳ではないが、私にとって今年最も響いた言葉となりました。スウェーデンの普通の16歳の少女は、米誌タイムによってパーソン・オブ・ザ・イヤーに選ばれました。英科学誌ネイチャーからも、科学の分野で2019年に注目を集めた「今年の10人」の一人に選ばれました。また2015年秋の国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs）が定められました。その12番目のゴールは、つくる責任つかう責任（持続可能な消費生産のパターンを確保する）です。このうち5番目のターゲットは、「2020年までに廃棄物の発生防止、削減、再生利用および再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」となっています。日本においても、プラスチックごみや食品ロスの削減対策などのアクションが行われています。これ等のことは、何かどこかで繋がっているのではないでしょうか。

高崎市立中尾中学校生徒  
による河川清掃の様子



## 上州武尊山の北麓に散在する湿原の状況

自然環境部会 飯塚 紘一

上州武尊山の北麓の森の中に小さな湿原が点在している。この中の一つ、花咲湿原は荒れ放題になっている。マウンテンバイクの競技会で使われたコンパネが撤去されずに湿原に放置されている。木道も荒廃していて、こわくて乗れないところもある。まさに管理放棄状態である。田代湿原から道があるが、良い管理状態ではない。木道の設置が望ましいところだが、ぬかるみを歩くところもあった。田代湿原から花咲田代に向かうと。途中に武尊田代がある。訪れたのは6月下旬だったが、草地全面にヒメカイウが咲いていた。

訪れる人は少ないけれど放置しておけば湿原がだめになってしまう。維持管理するための費用は経済規模の小さい自治体では負担が過大になる。県または国が支援することが必須と思いますが、環境アドバイザーの皆さまはどう考えるでしょうか。



ヒメカイウ

# 地域環境学習事業「温泉県ぐんまの可能性・エネルギーの地産地消」

〈11月2日（土）13：30～16：30 高崎市労使会館大ホール〉

温暖化・エネルギー部会 清水 明  
(地熱エネルギーを学ぶ会 代表)

講演会に先立ち、地熱エネルギーを学ぶ会会員が、福島県の土湯温泉バイナリー発電の現地研修を行い、地元利益を還元していること等を学びました。

講演会では、新聞、地元ミニコミ誌での広報により、予定40名を大きく上回る56名の参加者でした。環境アドバイザー、大学生を含め、興味のある人がたくさんいることがわかりました。温泉ライターの小暮淳さんにも参加していただきました。

終了後のアンケートでは、「わかり易い説明、聞き取り易く、地熱エネルギーの基礎情報や県内の事例について知ることができた」「地熱発電にも種類があること、メリット・デメリットもわかり、大変勉強になった(大学生)」等とあり、今まで馴染みのない地熱エネルギーについて、理解が深まりました。今回の講演会の記事が、11月7日の読売新聞にも紹介されました。

また、12月1日、第2回上州ぐんま市民環境保全活動発表会&交流会(会場:高崎商科大学)の茶話会形式発表において、「地熱エネルギーを学ぶ」と題して土湯バイナリー発電と11月2日講演会の概要説明を行いました。

今後は、地熱利用の先進地研修や、赤城地区の地熱開発の動きを含め、幅広い情報収集を行い、得られた知見の活用や情報発信を行ってまいりますので、当活動に賛同される方の参加をお待ちしています。

.....

## 第2回上州ぐんま市民環境保全活動発表会&交流会

広報委員会 萩原 豪

11月30日（土）と12月1日（日）の両日、高崎商科大学において「第2回上州ぐんま市民環境保全活動発表会&交流会」を開催しました（来場者：初日177名、2日目116名）。市民による活動報告は口頭発表4件、ポスター発表6件、茶話会式発表2件、企業を含む展示発表4件がありました。またSDGs講演会「群馬におけるSDGsと地域の持続可能性」では、京都市在住のエコロジスト・森孝之氏の基調講演を、「LGBTQ+シンポジウム」では基礎講座と当事者によるトークセッションを、そして桑茶を使ったオリジナルレシピの試食会を開催しました。来場者と発表者の新たなつながりができて今後の展開に発展しそうだ、という嬉しい報告もありましたので、来年度の開催も検討したいと思います。（本イベントは環境アドバイザー連絡協議会広報委員会協力事業です。）





# リデュース・リユース・リサイクル推進功労者内閣総理大臣賞を受賞して

藤岡工業高校教諭 富岡 賢洋

藤岡工業高校では、10年以上前から紙のリユース・リサイクルなどの環境保全活動に取り組んでいて、平成28年度からは授業や課外での環境活動・環境学習を進めるための「藤工環境活動プロジェクト」をスタートしました。このプロジェクトは、3Rに関するものや自然環境の保全、家庭の省エネルギー、農林業獣害対策など、8項目ほどのテーマで構成されています。

このうち3Rに関係したものでは、①紙の再利用と再資源化の推進、②廃食用油を有効活用した廃棄物の削減、③廃電線を有価物として活用した環境と社会福祉貢献活動、④廃棄物処理施設の見学とリサイクル実習、⑤「ぐんま環境学校」への入校などの活動や学習を行っています。

今回、群馬県廃棄物・リサイクル課より推薦・応募された「藤工環境活動プロジェクトで取り組む多様な3R活動」が、3R推進功労者等表彰において内閣総理大臣賞を受賞しました。

・令和元年度3R推進功労者 [http://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki/jisseki\\_r01/](http://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki/jisseki_r01/)

・藤岡工業高校「藤工環境活動プロジェクト」 [http://www.nc.fujikou-hs.gsn.ed.jp/?page\\_id=98](http://www.nc.fujikou-hs.gsn.ed.jp/?page_id=98)



廃電線のリサイクル協力活動



廃食用油の回収と提供活動



ガラスびんのリサイクル実習

## 群馬県環境対策、2050年を見据え、5つのゼロ宣言

— 環境先進国ドイツから学ぶこと —

顧問 鈴木 克彬

2019年(令和元年)12月25日付の上毛新聞の記事によると、群馬県の山本一太知事は、環境省の小泉進次郎大臣に、2050年を見据え、『群馬県は5つのゼロ宣言を目指す』と表明しました。

その5つとは次のとおりです。

1. 自然災害による死者『ゼロ』
2. 温室効果ガス排出量『ゼロ』
3. 災害時の停電『ゼロ』
4. プラスチックごみ『ゼロ』
5. 食品ロス『ゼロ』

この5つを見ると『ゼロ』は厳しいな?と思いますが、30年先の目標です。最近の異常気象対応・地球環境維持のため・国・県・市町村・地域・個人すべてが総力を挙げて対応しなくてはいけない問題だと思います。しかし改めて振り返ってみると、この宣言の内容は、30年ほど前から、ドイツは各種のルールを国及び地方の州が作り、一体となって、既に実行していることではないでしょうか。

例えばドイツでは、自然保護のため、樹木1本、伐採するにも許可が必要です。デポジット制度の実施で町からペットボトルの散乱がなくなり、包装容器の規制令でプラスチックごみが激減し、殆どの野菜・果物類がばら売りか・網袋入りとなりました。家庭ごみの有料化も実施しています。

私は群馬県環境アドバイザーをしておりますので、ドイツで実施されているデポジット制(預り金制度)やレジ袋の有料化等を群馬県でも実現したかったのですが、業界の意向・結束が強く、実現には至りませんでした。…各種情報によると、2020年7月1日から、レジ袋は全国一斉に有料になるようです…

私は、地球温暖化対策・プラスチックごみ対策等は、どうしても国が率先し、産業界を説得し、自治体の協力を得て、“点を線でつなぎ、面にして徹底・PRしなくては難しい”、と考えます。

日本は山林が多く、また地震や台風等自然災害も多いという、ドイツとは異なる条件下はあると思いますが、環境先進国ドイツの実施した内容等を再学習し、群馬県の目指す地球温暖化防止やプラスチックごみ減少等の環境対策に出来る限り応援・協力していきたいと思っています。

## 「第21回ぐんま環境フェスティバル」に参加しました

広報委員会 酒井 義明

令和元年10月5日(土)9:30~16:00にヤマダ電機(LABI1 高崎)にて、ぐんま環境フェスティバル実行委員会主催で「第21回ぐんま環境フェスティバル」が開催されました。

県環境アドバイザー連絡協議会は4Fのイベント会場の一画で、環境アドバイザーの方々17名のご協力をいただき、活動内容の説明と今回は、中島さん、伊藤さん、西村さんの協力で顕微鏡による水中や土壌の微生物の観察体験を行いました。

活動内容の説明では、温暖化・エネルギー部会より“温泉県ぐんまの可能性「エネルギーの地産地消」”シンポジウムの案内、自然環境部会より情報交換会議の日程や森林整備作業の誘い、環境アドバイザー西村さんより太田市内の水辺のプラスチックごみについての現状報告等が環境アドバイザー募集と合わせて行われました。

顕微鏡による水中や微生物の観察体験では、普段なかなか目にすることのできない微生物の世界を覗きました。微生物は直接目にすることは難しいですが、私たちの足元や身近な池にも生息しており、生態系の土台を構成する大切な生き物です。土壌中の微生物は分解者として働き、有機物を無機物に分解してくれます。水中の微生物は、植物プランクトンは生産者として、動物プランクトンは低次の消費者として働きます。植物プランクトンである珪藻が生み出す酸素は光合成生物が放出する酸素の25%にも達します。

顕微鏡という装置を利用して普段見ることのできない世界を覗くことは、新たな視点の発見であり、広い視野を育んでいきます。子供たちや多くの県民の方々に体験していただくことで、環境への関心や生態系の大切さをアピールできたと思っています。

今回利用した顕微鏡は、県の備品であり環境アドバイザーの皆さんは申請をすることで、無料で利用することが出来ます。皆さんの活動にも是非ご利用いただければと思います。



写真 顕微鏡による観察体験コーナー



写真 ご協力いただいたアドバイザーの方々



# 清掃工場見学会報告

環境アドバイザー前橋部会 宗 義彦

開催日時：令和元年 10 月 8 日(火)12:30～16:30

バス：市が用意してくださいました

参加人数：17 名 市担当添乗員：ごみ減量課より 2 名

前橋市役所環境部のお世話で前橋市のごみ処理施設の見学会を 10 月 8 日に行いました。不燃ごみ・粗大ごみ・プラスチック容器包装・びん・缶・小型家電・危険有害ごみを処理している荻窪清掃工場と、隣接した最終処分場の見学、それに可燃ごみを焼却している六供清掃工場の 2 カ所を見学しました。

今回の見学会で感じたのは、ごみ問題が現在社会で大きな課題であるにも関わらず、まだまだ住民の意識が低いことです。ごみの排出量は減少していないし、可燃ごみ中に缶・びんの他に自転車など不法投棄されていたそうです。最終処分場も間もなく限界を迎えようとしております、この先どうするか市もいろいろと考えているようですが、まずはごみの減量化運動でごみの排出量を少なくする事が肝心であると強く感じました。今回の見学会には前橋以外のアドバイザーの方にもご参加いただき、有難うございました。

(参考)

荻窪工場：1 日 40t のごみを受け入れてます。

最終処分場：敷地面積・74,989 m<sup>2</sup>、埋立面積 46,700 m<sup>2</sup>。埋立対象：焼却残渣

その他：浸出水処理施設

六供清掃工場：焼却能力 1 日 405 t。発生する熱での発電量 2,400KWh

焼却炉の延命工事はほぼ終了して稼働している。



## 編集後記にかえて、井上さんのエコガーデン見学

8 月 10 日(土) 30 年度エコカレッジ修了生の会、奈賀さんの紹介で広報委員の井上金治さんの「農薬により生態系が危機的な状況にある事」の講演がありました。関連して、井上さんご自身が無農薬でされているエコガーデンの見学会とバーベキューを、環境アドバイザー女子会および 30 年度エコカレッジ修了生の有志の皆様で 9 月 28 日(土)に行いました。2500 m<sup>2</sup>程の広大なガーデンには我が国に自生する多くの植物、野菜、花、ハーブの他、日本ミツバチの小屋までありました、井上さんはこの他に無農薬で畑もされています。

GREEN ニュースでは環境アドバイザーの皆様の活動紹介、個人の活動発表を企画していますのでご連絡をお願いします。  
広報委員会 高寺 史佳

